

[江別市] 施策達成度報告書

政策 04 安全で快適な都市生活の充実

施策 04 市街地整備の充実

主管課：都市計画課

施策の目的

機能的で魅力的な市街地やまち並みを形成し、市民が暮らしやすいまちづくりを目指します。

対象(誰を対象とした指標か)

意図(対象をどのような状態にしたいか、施策のねらい)

市街地	機能的で魅力的な街区やまち並みを形成する。
-----	-----------------------

施策の目的をあらわす指標の動き(成果指標)

施策の成果をあらわす指標	単位	初期値	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	後期 目標値
機能的な「まち」と感じる市民割合	%	65.1	70.0	-	65.6	68.6	68.5	↗

施策の達成状況(25年度)

後期目標の達成状況については、基本事業では、事業の過渡期における数値の低下や経済状況の低迷などによる伸び率の鈍化により、一部で目標を下回る結果となったが、江別の顔づくり事業の進捗、市民との協働による公園の取り組みなどの要因により、成果指標の目標が概ね達成され、その効果により施策としても目標を達成することが出来た。  
これを踏まえ、今後も引き続き各種の取り組みを行い、更に市民が暮らしやすいまちづくりに努めていくことが必要である。

施策事業コスト	21年度決算額	22年度決算額	23年度決算額	24年度決算額	25年度決算額
トータルコスト(千円)	1,165,672	1,071,713	1,303,117	1,652,785	2,296,110
事業費(千円)	787,280	692,893	923,084	1,254,390	1,908,191
人件費(千円)	378,392	378,820	380,033	398,395	387,919

**基本事業**

**01 江別の顔づくり**

**基本事業の目的**

都心地区(野幌駅周辺地区)の整備・充実を図り、より快適な市民生活と経済活動の集積に努めます。

**対象(誰を対象とした指標か)**

**意図(対象をどのような状態にしたいか、施策のねらい)**

都心地区(野幌駅周辺地区)

市街地の整備充実を図り、快適な都心(中心市街地)を形成していく。

**基本事業の目的をあらわす指標の動き(成果指標)**

基本事業の成果をあらわす指標	単位	初期値	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	後期 目標値
野幌駅周辺の利便性・快適性に満足している市民割合	%	55.5	60.5	-	66.1	65.8	63.8	↗
鉄道高架後の南北交通量	台/日	31,898	-	-	-	32,009	-	40,000
中心市街地の店舗延べ床面積	m <sup>2</sup>	102,858	102,654	104,479	103,151	102,377	100,789	105,000

**基本事業の達成状況(25年度)**

後期目標の達成状況については、鉄道高架開業後、新駅舎が完成し、また、中原通等の鉄道横断道路8路線が全て開通しており、利便性や快適性、南北交通量に関する成果指標は初期値から増加している。

今後についても、引き続き、駅前広場や8丁目通、旭通などの都市基盤整備を着実に進め、駅周辺の利便性や快適性の向上を図っていく必要がある。

店舗延べ床面積については、初期値から面積が減少しているが、この要因は、駅周辺区画整理等の建物移転に伴う取り壊しなど、事業の過渡期に生じたものであり、今後、駅周辺の民間開発や高架下利用が図られることで、延べ床面積は増加が見込まれる。

施策事業コスト	21年度決算額	22年度決算額	23年度決算額	24年度決算額	25年度決算額
トータルコスト(千円)	658,986	609,674	832,464	1,159,984	1,819,507
事業費(千円)	526,218	464,594	683,983	999,664	1,663,246
人件費(千円)	132,768	145,080	148,481	160,320	156,261

基本事業の目的

計画的な市街地整備を進めるとともに活性化を誘導し、市街地の土地利用率を向上させます。

対象(誰を対象とした指標か)

意図(対象をどのような状態にしたいか、施策のねらい)

市街地	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市街地の土地利用率が上がる。</li> <li>・市街地外縁部の利点を活かした土地利用を図る。</li> </ul>
-----	--

基本事業の目的をあらわす指標の動き(成果指標)

※( )は、各年度の戸数

基本事業の成果をあらわす指標	単位	初期値	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	後期目標値
土地の有効利用率	%	72.0	-	-	-	-	-	75.1
市街地での新規着工戸数 【初期値(H19) 前期4年間 1,444戸 (累計)】	戸(累計)	-	138	322 (184)	364 (42)	526 (162)	823 (297)	1,110以上

基本事業の達成状況(25年度)

後期目標の達成状況については、土地の有効利用率は、都市計画基礎調査を基としていたが、H21に調査主体が市から道となり、また、次回調査年がH30となったため、成果指標として使用することが不可能となった。  
 新規着工戸数については、厳しい経済状況の中、鈍化傾向となり目標値には届かなかったが、計画期間の終盤においては緩やかではあるが増加してきており、今後もゆっくりではあるが、土地利用が進んでいくと推察される。

施策事業コスト	21年度決算額	22年度決算額	23年度決算額	24年度決算額	25年度決算額
トータルコスト(千円)	83,190	37,321	36,965	44,461	38,087
事業費(千円)	28,838	4,678	4,459	4,381	7,225
人件費(千円)	54,352	32,643	32,506	40,080	30,862

**基本事業**

**03 安全で憩える公園の整備**

**基本事業の目的**

市民との協働により公園再整備を進め、さらに市民管理の公園を増やします。また、安全で憩える公園を増加させます。

**対象(誰を対象とした指標か)**

**意図(対象をどのような状態にしたいか、施策のねらい)**

公園、地域住民	市民と行政の協働により、安全で憩える公園を増加、リニューアル、運営する。
---------	--------------------------------------

**基本事業の目的をあらわす指標の動き(成果指標)**

基本事業の成果をあらわす指標	単位	初期値	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	後期目標値
憩いの場としての公園満足度	%	71.7	74.2	-	75.6	72.6	78.5	↗
市民と協働で管理している公園数	箇所	68	70	76	79	79	78	80

**基本事業の達成状況(25年度)**

公園満足度の指標は、これまで実施してきた市民協働による公園再整備や公園管理の効果が現れており、初期値(H19年度)71.7%に対して、平成25年度が78.5%と増加傾向にあり、また、市民と協働で管理している公園数は、初期値(H19年度)68箇所に対して、平成25年度が78箇所と増加しており、後期目標値である80箇所を概ね達成した。

これを踏まえ、今後は子育て世代をはじめ、高齢者など、幅広い世代に安心して利用してもらえるような、公園管理や再整備を市民協働で取り組むことが必要である。

施策事業コスト	21年度決算額	22年度決算額	23年度決算額	24年度決算額	25年度決算額
トータルコスト(千円)	215,938	221,489	233,523	251,319	240,373
事業費(千円)	205,980	200,936	210,648	225,667	209,121
人件費(千円)	9,958	20,553	22,875	25,652	31,252

## 基本事業

### 04 人にやさしく、わかりやすい街並みづくり

#### 基本事業の目的

美しい都市景観づくりや施設のバリアフリー化を進め、人にやさしい施設、わかりやすく景観に配慮した街並みをつくれます。また、駅及び駅周辺、特別特定建築物などの関連整備を図り、利便性の高い機能的なまちをつくれます。

「特別特定建築物」…不特定かつ多数の人が利用する建築物のうち、主として高齢の方、障がいのある方などが利用する際に移動等の円滑化が特に必要な建物(養護学校、病院、老人ホームなど)

#### 対象(誰を対象とした指標か)

#### 意図(対象をどのような状態にしたいか、施策のねらい)

市街地、駅及び駅周辺の建物等	人にやさしい施設、わかりやすく機能的かつ景観に配慮した街並みになる。
----------------	------------------------------------

#### 基本事業の目的をあらわす指標の動き(成果指標)

基本事業の成果をあらわす指標	単位	初期値	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	後期目標値
まち並みがわかりやすいと感じる市民割合	%	66.3	69.2	-	68.5	68.9	67.0	↗
駅及び駅周辺においてバリアフリー等利便性の向上が進んでいると感じる市民割合	%	84.0	89.5	-	90.3	91.1	91.9	↗

#### 基本事業の達成状況(25年度)

<p>後期目標の達成状況については、駅及び駅周辺部の整備の中で、バリアフリー化が進められており、初期値に対し成果指標が向上する傾向にある。 今後ともこれらの整備を進めていく中で、バリアフリー化を推進する必要がある。</p>
---

施策事業コスト	21年度決算額	22年度決算額	23年度決算額	24年度決算額	25年度決算額
トータルコスト(千円)	15,234	11,752	13,343	10,428	17,293
事業費(千円)	6,935	2,886	4,514	2,812	6,354
人件費(千円)	8,299	8,866	8,829	7,616	10,939